

# はぐくもう

人権啓発シンボルマーク

2001

6/15 No.16

可児市人権啓発センター



分団登校風景（広見小学校）

## 分団登校

可児市交通指導員 佐藤 千枝

四月七日朝、今年もまた、期待と不安で胸をおどらせて真新しいランドセルを背負った一年生が、初めての分団登校をして来ました。バスや家の人に送ってもらった幼稚園、保育園への通園と違って重いランドセルを背負って通学路を上級生と一緒に歩いて来ることは、歩きなれていない一年生にとって大変骨のおれる事なのです。

一年生だけでなくリーダーの上級生たちも出発時間を今までより早めるなど、分団で考えて上手に連れてきてくれました。先頭を歩くリーダーは途中、何度も何度も振り返り一年生がついて来ているか気遣い、遅れていれば立ち止まり気長に待っています。荷物やランドセルを持ってやったり、一年生と手をつないでいる上級生、一年生も離れないようにしっかり手をにぎって歩いていきます。道路にあわせ安全な側に手をつなぎ変える大人顔負けの気配りをする子もいます。

入学式で皆そろって元気に言えた挨拶も一対一の挨拶は苦手なのかじつと顔を見つめるだけの子が多かったのですが、今では上級生に見習って元気な声が返ってきます。兄弟姉妹も少なく異年齢との交流も少ない子どもたちの分団での縦のやりとりを見ていると、子どもの発達、成長にとって大切な場所に思えます。

そんな分団登校も分団の人数が多いと、リーダーたちへの負担や危険も多くなるので考えてやりたいものです。リーダー・副リーダーには感謝しながらも「安全第一、命を大切に」と時には厳しい言葉もかけます。楽しく登校してくれることを願っています。

## 笑顔 見つけた

可児市人権啓発センター

会長 金子 正 味

「あらー先生、お久し振りです…『いつも心にほほえみを持つとう』…今も忘れないで続けていますよ。」

一昨年の夏のこと、ある会合の席で、エプロン姿の彼女からの突然の言葉に、(誰だった? どこで? いつ頃?) そんな咄嗟の戸惑いの中で、どうしても思い出すことができない。その内、進む会話の中で、六年生だった在りし日の少女の面影が、その笑顔と共に重なり合っ

て甦ってきました。丁度今から四十数年も前のことです。この子達が、何時も素直で、明るく、楽しい学校生活を送ってほしい。そんな切なる願いから、一日の始まりである朝に、『必ず一度は鏡に向かって、自分の笑顔を映して見よう』が子ども達と共に設定した学級生活目標だったんです。「今では孫もあり、六人家族の平穏な家庭で、幸せに暮らしておりま

す。」と語りかけてくれた彼女は、すばらしい笑顔で一杯でした。

よかった、よかった、私は涙の出るほど嬉しいこの出合いに、帰宅後、そっと映した。しみだらけの老顔。にも、なぜか、すがすがしい笑顔を見つめることができました。

過日、母の日前に、市内の保育園児・幼稚園児の『お母さんの似顔絵作品展』がありました。『可児のお母さん笑顔ばかり』と題した新聞。純真な幼児の心には、「ほくを叱る時でも、いつも心にほほえみを忘れないで励ましてくれるお母さん、ありがとう。」と一人一人の作品が、語りかけているように思えてなりませんでした。

母の笑顔は家庭のオアシス、明るくて楽しい泉の源。そんな思いの中、クレヨンを片手に、無心に描く園児達の姿が、むしろようにほほえましくて……。



## ぬくもり懇話会

市民の代表による懇話会が去る五月十五日、総合会館分室で行われました。「子どもの人権は今……」というテーマで、約二時間の話し合いでしたが、それぞれの立場から、思い切った発言がなされました。

〈出席のみなさん〉

(五名)

- 柿崎 宏 中さん
- 中島 康 司さん
- 加藤 郁 子さん
- 板津 修 学さん
- 青山 澄 子さん
- 自己紹介を兼ねて、子どもの人権に直接、あるいは間接的にかかわることができました。
- ルールを守ることが大切で、その中で自由を考えたい。
- あいさつをすることが相手を認めることになる。

・子どもの立場を考え、頭ごなしの叱責はさけない。  
・障害者のことについて、低学年から理解することが必要である。



・生活優先になり、心のこもったことが子どもへなされなくなる傾向が出ている。  
・心の教育ができにくくなっている。  
・「本の読み聞かせ」などのボランティア活動に行くと、子どもたちはよくあいさつができる。

・民生児童委員で、月一回程度会合を開き、情報の交流を図っているが、プライベート面になると、解決が困難なことが多い。  
・結論は出ませんでした。子どもは、大人の姿をよくみていうことになりました。

## 思うがままに

推進員 齋 清喜

平成十年三月、若干体調をくずしたこともあり定年目前に退職した私は、現在いたって健康そのもので、女房・子ども・おまけに孫達と喧嘩をしながら忙しい(?) 毎日を送っている。

なんとか無理をすれば定年まで勤めることも出来たが、私の以前からの持論であった、「自分の定年は自分で決めるもの」、「定年は元気で迎えるもの」と云う二つの考え方から出した結論であった。大方の人達は、定年を迎えることに、先々に対する一抹の不安と、寂しさを募らせるものである。長年管理社会に慣らされ、四六時拘束されて来た組織人間にとって定年は、社会との係わりを奪われる、という恐怖感、孤独感、そして焦燥感が先立ち系の切れた風船の様目目的を失ってしまうのも無理からぬこともある。しかし、定年の「定」は「定義」「規定」などに使われる場合の「さだめる」、「きまり」、或いは「定着」、

「安定」、「固定」、「落ちつく」、「とめる」という意味で、どこにも「やめる」とか「終わり」と云った暗い意味は見当たらない。定年とは、長い人生の中の管理社会という一つの段階の「区切り」、つまり通過点であり、次の段階への出発点であると考えるべきではなかるうか。「人間万事塞翁が馬」の諺のごとく、誰にも判らない先々のことをよくよ考えるよりも、干渉されず、自由気ままな人生が送れる時が来たと考えた方が心が和むはずである。自分の人生を、楽しくするのも、苦しく暗くするのも自分であることを胆に命じ、今までの管理社会との係わりから、家族や地域社会との係わりへとシフト変更し、これからの人生をより多くの人々との「出会い」、「触れ合い」を積極的に求めて行く姿勢が大切ではないだろうか。



## 第一回役員会終わる

去る四月二十四日(火) 総合

会館分室で、人権啓発センター役員会が開催されました。役員の方々は、二年間継続ですので、昨年度からのメンバーです。

平成十二年度の事業報告や決算報告が承認され、今年度の事業計画や予算が協議されました。

今年度は、センター設立十周年ですので、記念事業について熱心に話し合われました。事業の柱を三つにして、「プラントーの配分」、「記念講演会」、「人権に関わる標語募集」に力点を置くことになりました。ご協力をよろしく願います。



## 推進員会活動開始

昨年度からの継続の組織で、

活動が始まりました。係が二つに分かれています。始めに全体会を行いました。昨年度の事業の反省がなされ、次のようなことが話し合われました。

・人権意識調査の手順を更に工夫する。

・調査を整理する中で、推進員の横のつながりが深まった。

・笑い声が出る講演会になるとよい。

・小さい子を連れて講演会にみえる方の対策をどうするか。

引き続き、係活動が具体的に検討され、推進員一人一人の意欲を感じました。



## 人権啓発センター設立

### 十周年記念事業

本市は、平成三年十二月に人権擁護都市宣言がなされ、同時に、『人権啓発センター』が設置されました。「心豊かな活力とうるおいのある住みよい都市（まち）可児」の実現を目指して、十年目を迎えました。

この間、それぞれの関係の皆さん方の努力によって、市民の人権に対する意識も望ましい方向へ進んでいます。昨年度調査しました「可児市の人権意識調査」によりますと、質問「あなたは同和問題を解決するために、今後どのようなことが必要だと思いますか。」に対する回答として、「市民一人一人が解決するために努力する必要がある。」が26.5%を占め、「行政によるねばり強い教育・啓発活動が必要。」が46%を占めています。当人権啓発センターとしては十周年記念事業として、以下の三点を行います。

#### 一 記念講演

日時 平成十三年十二月一日

(土) 午後二時から(予定)  
場所 可児市福祉センター  
講師 現在交渉中

講師の都合があり、講演の時刻が現在、定まっていません。後日、お知らせします。

#### 二 プランターの配分

市民の皆様にも少しでも、人権啓発に意識をもっていたいただくために、市内の関係施設約六十か所にプランターを五個ずつお配りします。プランターの側面に「はぐくもう 思いやりの心」とプリントします。各関係施設で、温かい思いやりの花を咲かせてください。六月中旬頃にはお届けできると思います。

#### 三 人権啓発標語の募集

毎年計画的に標語を募集して掲示したり、街頭啓発のカレンダーに刷り込んで、市民の皆さんの人権意識の高揚に役立てています。標語の募集案内は七月初旬を予定しています。対象として、小中高生の部と一般の部とに分けています。幅広い層からの応募を期待しています。

## 新刊図書・ビデオの紹介

新しく図書・ビデオが入りましたのでご活用ください。

#### 【本】

☆児童虐待ものがたり  
☆新・現代女性の意識と生活  
☆心身障害児と地域社会の人々との交流

☆高齢社会白書

☆男女共同参画白書(十二年版)

☆Q&A「障害者」と街で出会ったら

☆Q&A在日「外国人」読本

☆人権という権利

☆世界人権の旅

☆どう超えるのか? 部落差別

☆えせ同和行為の実態と対応

#### 【ビデオ】

◇「心のどこかに」三十分

◇「ひとりぼっち」二十分



## 人権啓発コラム集

平成十三年三月発行



「心のともしび」

(内容の紹介)

このコラム集は、人権啓発センターの過去五年間の啓発資料が中心に記載されています。人権について、理解しやすい内容です。

#### 編集後記

渡辺前局長のあとを継いで、人権啓発の仕事をする事になりました松永です。市民の皆さんの人権についての意識が少しでも高まっていくように、お手伝いをしていきたいと思えます。皆さん方のいろいろなご意見・ご要望を期待しています。